山陽新聞
9月6日
水曜日
発行所
山陽新聞社
岡山市北区柳町2－1－1
新聞製作センター
岡山市北区新屋敷町1－1－18

備前に特殊鉄骨工場

リニア新幹線見据え増設

地下工事向け 桂スチール

建設用鋼材メーカーの桂スチール（兵庫県姫路市）は、備前市で工場の増設を進めている。10月をめどに国内最大サイズの地下工事用の特殊鉄骨を手掛ける新棟を整備するほか、４月には近くで建設していた２棟を稼働させた。2027年に東京一名古屋間で先行開業を目指すリニア中央新幹線の工事など、東京五輪後の大規模な鋼材需要も見据え、生産能力を高める。

4月に稼働した工場。東京五輪後の鋼材需要を見込み、生産能力を高めている

桂スチールが増産に乗り出す構真柱。強度が高く、地下構造物などに使われる

3棟合わせた総投資額は約11億2千万円。新棟は第2工場（同市吉永町岩崎）内に整備し、鉄骨平屋約1250平方㍍。大型の切断機や自社開発の自動組み立て装置などを備える。従業員5～10人を新規採用する計画。

新棟では、地下工事に用いる「構真柱（こうしんばしら）」と呼ばれる鉄骨を生産する。地下の構造建設物や土留め杭（くい）などに使われ、長いもので20㍍超、重さ20㌧程度になる。桂スチールはH形とT形の鋼を組み合わせて溶接する構造を採用し、土圧や水圧への耐性を高めている。

これまで構真柱の専用工場はなく、安定した操業が課題だった。新棟整備で生産を効率化し、現状の倍以上となる月500～1000㌧の生産を見込む。

4月に第2工場内で稼働した2棟のうち、1棟（鉄骨平屋約1450平方㍍）には強度の高い極厚の鉄板を自動溶接できる新型設備を導入。加工可能な板厚は最大50㍉から100㍉まで広がった。もう1棟（同約1300平方㍍）は倉庫として活用している。

桂スチールは鉄板を溶接してつくる特殊H形鋼で国内シェア約4割のトップメーカー。現在は首都圏への出荷増でフル操業が続く。五輪後もリニア中央新幹線のほか、建設コストの高騰で施主が見合わせている開発の進展が見込まれることから、「鋼材需要が急激に落ち込むことはない」（桂スチール）と判断、設備投資を決めた。

事業基盤の強化に伴い、年間約96億7千万円（16年9月期）の売上高を3年後には120億円まで引き上げたい考え。三木桂吾社長は「都市部では官公需だけでなく民間の開発意欲も旺盛。建物の高層化、大型化に対応できる体制を整え、シェアを広げたい」と話している。

桂スチールは1985年設立、資本金5750万円、従業員約200人。岡山県内では備前、玉野市に計6カ所の工場があり、東京スカイツリー（東京）やあべのハルカス（大阪）の構造材を納入した実績もある。

（太田知二）